

問1 a、いしずえ b、密集 c、けんちよ d、頻発 e、侵攻（進攻）

問2 生物の世界は同じことを繰り返さず常に変化しつづけるが、人間の世界は道具を使うことによって均一な行動がとられるようになり、人間の行為は固定化されていった。

問3 変化しつづける世界や事物の時間を止めたり、抽象化したり別のものに変えたりする性質。

問4 機械の発明によって生産性・効率性が高められるにつれて、人間も時間に管理・支配されるようになる。さらに情報によって未来の時間を先取りするようになると、逆に未来に現在の時間を奪われてしまい自由な時間が減り忙しく窮屈になった。

問5 自然の営みが操作できない以上、すべてを操作し予測するような未来は訪れないと筆者は現状をとらえている。そのうえで、自然の時間に寄り添った暮らしを取りもどすことが必要であり、とりわけ人間以外の生きものに目を向け、関心を持つことが重要だと述べている。

問 6 過去の助動詞「けり」の已然形

問 7 漢詩の内容は、いつの世の、誰の墓かもわからず、古びた墓は道端の土となり春には草が生えている、というものであり、出世や名誉を好まず、仏教的な悟りの境地を願う顕基にとって、その古い墓の姿は好ましく自身の理想であったから。

問 8 ②無罪であるのに罰せられて、流刑の地で月を眺めたいものだ。

③お嘆きになるご様子は、尋常ではなかった。

問 9 ・諸司に代わり、後一条帝の御所で服喪中のお世話をした。

・出家した。（出家して横川に籠った、も可）

問 10 世を捨てて出家した身であるものの、後一条帝が存命されていた昔を恋しく思い死を悼む心情が歌われている。

問11 傍線部 a「と」とともに」「、 b「みず」「づ」から」、 c「それ」

問12 書き下し 「そのちち（は） つみあり、かなるか「かならんか」。」
現代語訳 「冀缺（卻缺）の父である冀芮は前に罪を犯したことがあるが、それでもよいか。」

問13 現代語訳 「文公はいった。あなた（臼季）はどういう理由で、彼（冀缺）が賢人であると分かったのか。」

問14 「臣^ハ 見^ル 其^ノ 不^ル 忘^レ 敬^ヲ 也。」

問15 冀缺が畑で草を刈っていた時、食事を届けに来た妻に対して、賓客に対するように、敬いの心をもって丁重に対応したこと。

問16 「賊」